『負の遺産』

富岡市立丹生小学校　6年　富澤　凜皆

みなさんは、「負の遺産」を知っていますか。負の遺産とは、人類が犯した悲惨な出来事を伝え、そうした悲劇を二度と起こさないための戒めとなる物件を指す物です。(日本国内での用語であり、ユネスコが公式にそのような分類をしているわけではなく、明確な定義は存在しません。)ぼくは、その負の遺産の一つである、アウシュビッツ強制収容所について調べることにしました。

まず、アウシュビッツ強制収容所とは、第二次世界大戦中にナチス・ドイツによってポーランド南部オシフィエンチム市に建設された強制収容所、1940年に建設されたアウシュビッツ第一強制収容所を指しています。同収容所と1942年建設のアウシュビッツ第二強制収容所(ビルケナウ)は、「アウシュビッツリビルケナウ強制収容所」と総称され、1979年に国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の世界文化遺産に登録されました。

第一強制収容所を含む三つの収容所には、ナチス・ドイツによってユダヤ人を始めとする多くの人々が捕虜として収容され、劣悪な環境で過酷な労働を強いられた後、ガス室での毒殺処刑などにより虐殺されました。45年に当時ソ連軍によって解放されるまで、ここで百万人を超える人々が命を失ったとされています。現在、アウシュビッツリビ

ルケナウ強制収容所の跡地は国立博物館として公開されており、解放から十年ごとの節目に、犠牲者を追悼する式典が開かれています。

このような大量虐殺は、どんな理由があったとしてもしてはいけないことです。そんな悲しい歴史を忘れてはいけない。そのためにも、負の遺産は後世に残して伝えることが大事だと思いました。

『貧困や差別』

富岡市立妙義小学校　６年　柴崎南杜

私は、ユネスコについて、詳しく知りませんでした。そこで、ユネスコについて調べてみました。

ユネスコは、平和のとりでを一人ひとりに築くために貧困などの子供たちを助けています。さらに、世界遺産や身近なものを地球の宝物として未来に引きつぐことを目的とした「世界遺産活動」などもしているそうです。今、世界で 80 数か国に約 3,500 のユネスコ協会やクラブがあります。

私は、困っていることはありません。でも、世界にはたくさんの人々がお金に困ったり、紛争で食べ物がなかったりして、大変な思いをしている人がいるというのを私は聞いたことがあります。その人たちを救うためにユネスコはいろいろな国で活動していて、すごいと思いました。

私は、今までユネスコについて調べて気になることがあります。世界で貧困に苦しむ人はどのくらいいるかが気になりました。世界の人口は 2020 年時点で約 78 億人だそうです。

そして、貧困に苦しむ人の数は、６人に１人という割合です。

私はびっくりしました。私がみんなと学校で勉強している間にもお腹がすいたり紛争で大変な思いをしたりしている人が世界にはたくさんいるということです。私は世界でそういった大変な暮らしをしている人が少しでも減って、楽しく

過ごせる未来になってほしいと思いました。日本でも、相対貧困率は、約 15 パーセントとかいてありました。自分が住んでいる日本でも、困っている人がいるんだなと思いました。

私は、自分の国以外の人しか考えていませんでした。外国では、黒人差別による事件を、ニュースで見たことがあったけど、日本ではあまり聞いたことがなかったので、自分も関心をもって見ていかなくてはいけないということがわかりました。今まで他人事のように見ていたのですが、自分の近くにも困っている人がいるかもしれないと思いました。これから、日本でも外国でも、厳しい環境で過ごしている人が減って、みんなで差別なく、平等に楽しく過ごせるように募金や活動などが世界中に広まっていってほしいと思いました。

いやな思いをしないで生きる人が増えるといいなと思います。家も食料もあって、紛争や戦争で命を落としたり、家族をなくしたりする人が減って、みんなで過ごせるようになってほしいです。

『世界遺産を守り続けるため』

富岡市立妙義小学校　６年　内藤和樹

今、世界遺産は技術・資産・人材の不足により危機に瀕しています。人類にとって顕著な普遍的価値を有する文化や自然遺産が登録される世界遺産。世界遺産に登録された遺産は、その遺産を持つ国によって保護、保全されることが原則となっています。しかし、世界遺産を将来にわたって守り続けるための技術や資金、人材が不足していて、自分の国だけでは守り続けることが難しい国々もあるのが現状です。

ぼくは、まず世界遺産の大切さを伝える事が大事だと思います。どれだけ世界遺産のために努力して守ろうとしても、人々に世界遺産の大切さを伝えたり広げたりしないと意味がないと思いました。人々が世界遺産の大切さや、素晴らしさを知れば、世界遺産に対する態度も変わってくると思います。その様に皆が知っていけば、一人一人が世界遺産のために支援などをしてくれると思います。そして、日本も今、同じ状況にあります。日本も同じ様に、世界遺産の大切さを一人一人が知ることで世界遺産は救われると思います。

寄付で活動を支える

この世界には貧しく教育などが受けられなかったり、病気なのに、注射などが受けられず死んでしまったりする人がたくさんいます。そんな人たちのために始まったのが、募金です。募金は、貧しい人や病気の人のためなどに使われます。

寄付が集まれば、集まるほど人々が助かったり人々が幸せになったりします。そういったものを大切にしたいと思いました。また、自分も人々のために寄付や募金をしてあげたいと思います。そして、いつかは、病気や貧しさで困る人をなくしたいと思います。

活動を支える・参加する

ぼくは、聞いたりしているだけではなく、ユネスコの活動を支えたり、イベントに参加したりしたいと思いました。こういうことを聞いて、かわいそうだなあと思う人はいるけど、ぼくは世界遺産や貧しい人たちのために、ボランティアをしたいと思いました。将来こういった活動ができるようにユネスコの勉強をして、貧しい人たちや、世界遺産のために、がんばっていきたいです。

『未来のために私がすべき事』

富岡市立西中学校　１年　勅使河原　夏

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中の砦を築かなければならない」

私は初めてユネスコ憲章を読み、何か強い力で背中を押されたような気がしました。

世界平和は、誰もが望んでいることだと思います。では、なぜ戦争や紛争が起こるのか、何が原因でどうすれば平和な世界を築くことができるのか。自分の中で出せなかった答えが、このユネスコ憲章と活動を調べていくうちに少しずつ見えてきました。

私が一番心を動かされたのは、SDGs ゴール４の「質の高い教育をみんなに」を重点に置いた活動の一つ世界寺子屋運動です。

小学校の社会の授業で海外ボランティアの活動を知りました。興味が湧き、世界の貧困について調べたことがあります。考えたこともなかった世界の状況に衝撃を受けました。私は、その時の自分にできることを調べ、小学校を卒業してすぐ東南アジアにランドセルを寄付する活動に参加しました。しかし、受け取った子どもが果たして学校に通えているのか、教育を受けられる環境なのか、ずっと気がかりでした。そのため、世界寺子屋運動の活動内容を知り、とても共感しました。

世界寺子屋運動の活動拠点はCLCと呼ばれるコミュニティー学習センターです。ここは日本で例えると公民館のような存在なのかなと思います。ここでは、年齢性別問わず学びたい人が、読み書き計算を学ぶ基礎教育、技能を身につけ収入を増やすための職業訓練を受けることができます。ただそれだけでは、ずっと第三者が支援を続けなければなりません。寺子屋自体も地元の人達で運営していけるよう人材育成にも力を入れています。学んだ人達が継続し豊かな生活を築いていくために地域の人や現地行政と協力し、知恵を出し合って様々なプロジェクトが地域に合わせて進んでいます。

この活動を知り、私がランドセルを送ったように、物資や金銭を支援することもとても重要ですが、同時に地域の人が横の繋がりを大切にし、皆が自立できるようにしていく所まで、短期的支援と長期的支援を同時に進めていくことが貧困を断ち切る近道なのだと思います。

皆が教育を受けることで知識を広げ、文化や民俗、自然を大切に思う心も育ちます。

人々が正しく理解し合い、互いを大切に思い助け合うことができれば平和な世界を築いていけるのだと思います。

今の私にできる事、それは常に目をそらさずに今を知ること、身近にできる支援を継続して行うこと。そして、しっかり学び知識を沢山付ける事。

将来、私は人の心の中の砦を作る手伝いができる人間になりたいと強く思っています。

『教育が受けられるという事』

富岡市立南中学校　２年　奥田　明璃

私はユネスコと聞いて世界遺産の保護が思い浮かびました。この作文を書くに当たって、ユネスコがどんな活動をしているのか公益社団法人日本ユネスコ協会連盟のホームページなどで調べてみました。

調べてみて私が一番印象に残った活動は「世界寺子屋運動」です。「世界寺子屋運動」とは、年齢や宗教、性別にかかわらず全ての人が平等に教育の機会を得られるように、無償で学ぶ機会を応援する活動の事でした。

また、私はこの説明を読んで、世界にはどれくらい人が教育を十分に受けられていないのか気になり調べてみました。

すると、驚くべき事実が分かりました。それは、世界には貧困や紛争など様々な理由で学校に行けない子どもが約一億二千百万人いること。また、学校に行けなかったため、教育を受ける機会が無いまま大人になり、文字の読み書きができない人が約七億七千三百万人いる事を知りました。私はこの事実を受けて「今自分が勉強できている事は当たり前ではない事」「世界には教育が受けたくても受けられず苦しんでいる人がいる事」「自分はすごく恵まれているという事」を痛感しました。

私は、教育が受けられない人のために自分にできることは何かないかと考えてみました。私が小学生の時に、学校が呼

びかけていた「書き損じハガキキャンペーン」について思い出しました。「書き損じハガキキャンペーン」とは、書き間違いや未使用のハガキ、タンスの中に眠っている金券、株主優待券などの「タンス遺産」を回収して募金に換え、世界寺子屋運動のために使うキャンペーンのことを言います。実際書き損じハガキ十一枚、未使用切手五百円分、プリペイドカード五百円分でカンボジアの場合、一人が一月学校へ通えるそうです。私は、冬になったら書き損じハガキに協力してみようと思います。

私は、この作文を通して世界には教育を受けられない人のために「世界寺子屋運動」や「書き損じハガキキャンペーン」のユネスコ活動が行われている事を知りました。また、私達が教育を受けられない人のために手を差し伸べられるという事も知りました。でも実際、手を差し伸べるという事は簡単そうで難しく勇気がいると感じました。

これから先「今は当たり前じゃない」という事を頭に入れながら、世の中が平和になるような行動をしていきたいです。